『最終処分場』の新設に向けて始動

現処分場延命のため、ごみ減量と徹底した分別を！

共和地区にある一般廃棄物最終処分場・リサイクルセンターの敷地内に、新たな最終処分場の建設が動き出します。この施設の概要やスケジュールなどについてお知らせします。

既存最終処分場の使用期限はあと4年 皆様の協力により延命化に成功

平成12年4月に使用開始した現在の最終処分場は、当初15年間の利用を見込んでいましたが、16年が経過した今も受け入れを継続できています。これまで、町民の皆様のご理解とご協力によりごみ有料化やさまざまなごみ分別収集が円滑に実施され、平成27年度現在ではごみ排出量、リサイクル率ともに国や北海道の目標値を達成できました。

今後のごみ排出量は人口規模から減少傾向と見込んでいますが、毎年実施しているごみ埋立量の調査結果から、あと4年程度の容量しかないと予測しています。適切な分別処理により15年の予定が20年に延命できたことになります。

現時点では、施設の新設に伴う分別区分や収集回数、処理体制についての変更は予定していませんが、ごみ質やごみ量の変化、受入体制の変更など、状況が大きく変化した場合は効率的な体制を検討し適宜見直しを行うこともありますので、今後も町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

▲既存の最終処分場の状況

焼却と生ごみ堆肥化は大空町と引き続き共同処理 平成32年度中の完成を目指します

新しい最終処分場が完成するまでには、表1のとおり、測量や調査、設計や建設工事などに4年程度かかることから平成32年度中の完成を目指しています。

町はこれまで、事前準備として平成28年3月に策定した「津別町一般廃棄物処理基本計画」、この基本計画を基に環境省の交付金制度を活用するために必要な「津別町循環型社会形成推進地域計画」の作成、建設場所の適地選定などを進めてきました。

〈表1〉整備スケジュール

年　度	内　容
平成29年度	測量、地質調査、生活環境影響調査、最終処分場施設基本計画、最終処分場基本設計
平成30年度	最終処分場実施設計
平成31年度	建設工事
平成32年度	建設工事、供用開始

また、引き続き焼却処理と生ごみ堆肥化処理を相互に行っていくこととなる大空町、隣接する美幌町の2町でごみ処理広域化の検討について協議を行ってきましたが、両町ともこの計画期間内に新たな広域処理の予定はないことから、津別町単独での最終処分場建設となります。

▶リサイクルセンター施設見学の様子

▲分別されていないため回収できない生ごみ

新設場所は現施設の敷地内に 長く使用できるよう分別にご協力を

新しい最終処分場の概要は表2のとおりですが、まず施設の大きさについて、現在の埋立容積は3万㎥で面積が6900㎡、それに対して新設の埋立容積は1万5000㎥で面積が4500㎡、約2分の1の規模となりますが、今後は人口減少とともにごみ量も少なくなるという見込みです。埋立期間は、平成32年度から平成46年度までの15年間の予定です。また、埋立地から出る浸出水の処理について、今後も徹底した管理を行うため新たな水処理施設を建設します。

図1は最終処分場の配置図です。図面の中央に新設の最終処分場と水処理施設の配置を予定していますが、図面上部には生ごみを堆肥化している堆肥製造施設、図面下部にはリサイクルセンターと既存最終処分場があることから、今後もこの共和地区で一体的なごみ処理を進めていきたい考えです。

〈表2〉新設最終処分場の概要

埋立対象物	埋めるごみ、粗大ごみ、焼却灰など
埋立規模	面積 4,500 ㎡、容量 15,000 ㎥
埋立期間	平成32年度～平成46年度（15年間）

事業費について、4年間で総額11億4千6百万円の見込みとなっていますが、そのうち環境省からの交付予定額は事業費の約3分の1、残りの財源については起債（借入）で対応する予定となっています。

最近のごみ処理状況を見ると、人口が減少しているもののごみ量はあまり減少していません。ごみ分別については、ほとんどのものは良好といえるのですが、埋めるごみの中に紙類や生ごみ、資源物が混入されているものが一部に見られます。最終処分場を1日でも長く使用し、使用期限を短くしないためにも徹底した分別によるごみ減量が必要です。

ごみ処理などに理解を深めていただくため、今後もごみ処理施設見学や環境衛生に関する学習会の開催要望を随時受け付けていますので、少人数でもお気軽にご相談ください。

▶分別せずに出されたごみ

問い合わせ先
住民企画課住民環境グループ
☎76―2151（内線217）